

淀川水系流域委員会 第35回委員会 結果概要

開催日時：2004年11月16日（月）16：05～18：45

場 所：カラスマプラザ 21 8階大会議場

参加者数：委員 37 名、河川管理者（指定席）18 名

一般傍聴者（マスコミ含む）221 名

本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。

1．決定事項

2．審議の概要

ダムWGにおける検討経過報告と意見交換

環境への影響に関する意見交換

地元住民との関わりに関する意見交換

ダムの具体的な検討手順に関する意見交換

治水に関する意見交換

その他

委員会の今後の運営について

3．一般傍聴者からの意見聴取

1．決定事項

- ・流域委員会意見書を作成するにあたり、流域住民から広く意見をお伺いする場として、「住民の意見を聴く会」を12月5日（日）13:30～17:30に開催する。
- ・地域部会で検討中の「整備計画進捗状況の見直し・点検」については、委員会意見としてとりまとめるために、重複意見の集約や書式・体裁の統一等の作業を行う調整会議を設ける。メンバーは、江頭委員、中村委員、今本委員、榊屋委員、川上委員、池淵委員、本多委員とする。
- ・流域委員会の成果と課題について、次の新流域委員会に引き継ぐためにも、各委員から意見を頂き、第37回委員会（1/11）までに意見を集約する。

2．審議の概要

ダムWGにおける検討経過報告と意見交換

今本委員より、ダムWG報告（案）を用いて、ダムの基本的な考え方と検討方針について説明がなされた後、意見交換が行われた。

（委員長からのコメント）

本日は、個々のダムに関して具体的に経過報告を行う予定だったが、12/1および12/5

のダムWGで河川管理者からダムと利水の説明が行われるため、その説明を待つというようになった。ご了承頂きたい（委員長）。

（河川管理者からのコメント）

- ・12/1 および 12/5 のダムWGにおいて、ダムの調査・検討に関する報告を行う。6月以降、調査・検討結果を順次提出してきたため、まとまった説明にはなっていなかった。このため、12月までの調査・検討結果を中間とりまとめとして集約し、説明したいと思っている。全ての調査・検討が終わったわけではないので、河川管理者としてダムの答えを出すということではない（河川管理者）。

環境への影響に関する意見交換

- ・ダムの検討手順として、「ダムの主たる目的とその効果について精査する。ダムの主たる目的に関わるダム以外の方法とその効果について検討する。河川整備計画の具体的な目標の実現性からダム建設の妥当性を評価する」と説明されたが、をに変更し、新たにとして「河川環境へのどのような影響（プラス、マイナス）を及ぼすか、検討する」を追加して頂くよう希望する。
- ・新河川法で環境が目的化された以上、ダムの環境への影響に関する検討を、ダムの具体的な検討手順の中に入れておくべきではないか。ダムの具体的な検討手順だけを見れば、環境について検討しないように見える。
- ・環境については、基本的な考え方として、ダムWG報告（案）の一番最初に次のように記述している。「とくに自然環境に対して不可逆的で重大な負の影響を及ぼす恐れがあると考えられる場合は、たとえ治水あるいは利水の観点から必要とされても、予防原則に則りダム建設を極力回避するようにしなければならない」。
- ・ダムが環境に対して不可逆的で重大な負の影響を及ぼすかどうかの検討が必要ではないのか。
- ・ダムWG報告（案）は、まずはダムが必要かどうかの検討をし、必要であったとしても、環境への不可逆的な負の影響があれば、建設にはつながらないという流れで構成されている（委員長）。
- ・環境面の検討は、特に、ダムによってどのような影響が出るのかを予測するのが難しい。また、今回は琵琶湖への影響も懸念されているが、これを具体的に検証することも現時点では非常に難しい。個々のダムが環境に与える影響に関しては、委員会の力量では具体的に精査検討できないと思っている。ただし、どのような影響が出る恐れがあるのかについては、指摘しておく必要がある。
- ・ダム検討手順の中に環境に関する検討がないという心配はもっともだと思う。ただ、ダムWG報告（案）の初めに、不可逆的影響と予防原則について書かれているので、ダム検討手順でかなりハードルの高い評価をすればよいのではないかと考える。
- ・ダムWG報告（案）の中で、「予防原則」の詳しい説明が必要だ。「現在の知見で環境

に著しい影響を与えることは分かっているが、科学的に証明することができない事業については実施を控える」というのが「予防原則」の肝心な考え方だと理解している。

- ・これまで、河川管理者からダムに係る自然環境の調査結果が報告され、絶滅危惧種の保全対策についても述べられてきた。これらについては委員会でも検討できるのではないか。
- ・絶滅危惧種の保全対策等、整備内容シートに書かれているものは、整備内容シートへの意見として書くべきことであって、ダムWGの仕事ではないと思っている。
- ・ダムWGで、環境について検討されていないという意見が多数出された。個々のダムが環境に与える影響について、委員会が精査検討するというのであれば、やはり検討した方がよいのではないかと思っている。

地元住民との関わりに関する意見交換

- ・ダム建設は、地元で暗黙的な約束をしている。ダム湖のレジャー利用による地域振興等、地元との歴史的な経緯についてどこまで検討できるか。広い意味では、検討手順「ダムの主たる目的とその効果について精査する」に含まれているとは思いますが、いずれにせよ、地元住民への責任という点からも、何らかの意見を入れるべきだろう。
- ・住民と行政との歴史的な関わりのあるダム計画が、なんらかの形で当初の計画から変更を余儀なくされるのであれば、その変更に対して、委員会は意見を言う義務がある。
- ・ダムは、採用するしないにかかわらず、地域社会に影響を与える。ダムと地域社会との関わりについては、章を改める等まで含めて考えた上で、きちんと意見を書き添えたい(ダムWGリーダー)

ダムの具体的な検討手順に関する意見交換

- ・ダムの検討手順として、「ダムの効果」について評価している。プラスの効果だけではなく、マイナスの効果も検討すべきではないか。
- ・ダムの具体的な検討手順として、ダムの効果について精査・検討すると書かれている。しかし、ダムに効果があるのは当然なので、ここでは、「ダムの有効性」について精査・検討するとした方がよいのではないか。
- ・ダムの検討手順に記述されている「効果」とは、河川管理者の主張する「効果」であり、これを評価していこうという意味で記述している。評価する際には、当然、マイナス・プラス両面を考えなければならない(ダムWGリーダー)。
- ・ダム事業費については、委員会は調査機関を有しているわけではないため、評価できないだろう。ただ、これまでのダム事業費を参考にすれば、常識的な範囲で評価できると考えている(ダムWGリーダー)。
- ・ダムの具体的な検討手順として、長期的な視点からも検討する必要があるのではないか。環境面、予算面等、次世代への何を残していくのかを考えた時には、長いスケールでの検討が必要だ。

治水に関する意見交換

- ・ダムWG報告(案)では「河道の流下能力として既往最大洪水程度に耐えられるものとする」とあるが、例えば、高時川のような河川で、当てにできるほどの実績降雨データが揃っているのかどうか、不安だ。

高時川は狭窄部ではないので、あらゆる洪水を対象として、破堤による被害の回避・軽減を目標としている。第8回ダムWGでは、特に高時川については、長年、河川改修が進んでおらず、なるべく早期に治水効果が発現できるような治水対策を考えていくと説明をした(河川管理者)。

- ・ダムWG報告(案)では「河道の流下能力として既往最大洪水程度に耐えられるものとする」としているが、目標洪水についてダムWGで結論が出たのか。
- ・ダムWGでは狭窄部上流の目標洪水を実績の既往最大洪水にすることになった。狭窄部以外の目標洪水としては、河道で既往最大洪水程度には耐えられるようにすることが最低限必要だと考えている(ダムWGリーダー)。
- ・基礎案では、狭窄部上流以外の目標洪水を「あらゆる洪水」としているが、現実には、天井川等の危険な箇所で浸水被害が起きる可能性が高い。特に治水安全度が低い地域については、20~30年で実現できる目標が必要ではないか(委員長)。

対象洪水を決めずに、あらゆる洪水に対して破堤による被害を回避・軽減するという目標については、河川管理者と委員会で共通した認識だと思っている。その上で、現場を見ながら、例えば、河道に繁茂している樹木がある、若干掘削すれば流下能力が上がるような箇所については、整備計画の中で位置付けて、堤防補強と同時にやっていけばよいと考えている。その結果として、「戦後最大洪水に耐えられるようになる」といった評価を出していけばよいと思っている。目標洪水を決めて治水対策をするのではなく、現場の問題点を明らかにしながら、その対策を整備計画に盛り込んでいき、結果としてどの程度の安全度が確保できるのか、評価を出していけばよいと考えている(河川管理者)。

- ・基礎案では、治水について「破堤による被害の回避・軽減を目標」としているが、実際には越水や破堤によって浸水被害が発生する可能性がある。破堤による被害を回避・軽減する対策は、浸水被害対策と表裏一体で考えていかなければならない。目標はあくまでも「破堤による被害の回避・軽減」だが、浸水被害が発生することを前提にした防災対策が必要だ。以上のことを、ダムWG報告の初めで、ぜひ指摘して頂きたい。
- ・河川管理者には、天端 - 余裕高で破堤するという条件で検討してもらっているが、天端 - 余裕高では破堤しない場合の堤内地の浸水状態についても、あくまで参考して、検討して欲しい。

その他

- ・流域委員会が議論してきたこと(目標洪水の決め方、環境の評価方法等)を社会還元するために、これまでの検討経過等を取りまとめておく必要がある。

- ・ダムは国家的な要請によって作られてきた。特に戦後、国が法律を作り、税金を集め、地方に配分するというシステムが作られ、国土復興・地域づくりの中に、ダムによる治水・利水が組み込まれてきた。地方自治体もこの流れに乗って、ダム建設を進めてきた。しかし、こういった開発途上のやり方は、現代には合わなくなっている。ダムは、これからの地方分権の中、地元と地方自治体で考えるべきことだ。国が最初から介入すべき問題ではなくなっている。どこかで、これまでのやり方を変えていかないといけない。ダムWGでの議論はその契機になる。ダムのリスクと代替案のリスクを50年単位で比較した場合、代替案で少しずつ進めた方がリスクは低いだろうと思っている。
- ・ダムWGは、河川管理者が開催している住民対話集会で出された住民意見を参考にしながら検討を進めていくべきだ。河川管理者には、住民意見をとりまとめた資料の提供を要請していたと思うが、どのようになっているのか。
意見がとりまとめたものだけでなく、とりまとめ作業の途中段階にあるものも含めて、報告する。とりまとめの完了した資料については、12月1日のダムWGまでに委員にお送りしたいと思っている（河川管理者）。

委員会の今後の運営について

資料1「前回委員会(2004.10.25)以降の状況報告」、資料3-1「平成16年度事業に係る進捗点検の検討経過」を用いて、委員会の今後の運営について、意見交換が行われ、「1. 決定事項」のとおり、承認された。主な意見は以下の通り。

- ・ダムWGで提供された河川管理者の膨大な資料には、非常に貴重なものも多い。これらを引き継ぐためにも、将来的に誰もが参照できるような形でまとめておく必要があるのではないか。
調査・検討中の資料についてはHP等で参照できるようになっているが、調査検討が完了した後も何らかの形で誰もが参考にできるようにしたい（河川管理者）。
- ・琵琶湖部会では、琵琶湖水位の問題について、嘉田委員と西野委員に意見をとりまとめて頂こうと考えている。このため、流域委員会意見書案を検討するコアWGに両名を呼んで頂くようお願いしたい（琵琶湖部会 部会長）。

3. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者4名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・本日、ダムWG骨子案が出なかったことに失望している。努力してもらっていると思うが、一般傍聴者に配付されていない資料を元に議論をしてはいけない。
- ・ダムWG報告では、個別のダムについても環境面の評価をしっかりと書いて頂きたい。本多委員が提供された余野川ダムサイトの鹿の生態調査結果等を参考にしながら、環境面については突っ込んだ記述をお願いしたい。

- ・川上ダム建設計画を総合的に評価すれば、1.オオサンショウウオやオオタカなどの天然記念物、希少種、重要種を含む多様な生物の宝庫を間違いなく破壊する 2.活断層を含む前深瀬川大断層の存在が明らかになってきたこと 3.貯水池への地滑りと桐ヶ丘団地へのダム津波水害の危険性 4.岩倉峡の疎通能力が4,300m³/s以上あり、上野遊水地と合わせ、昭和40年24号台風の引き伸ばし降雨でも被害が発生しないこと 5.ダムの集水面積が1/10にすぎないこと 6.利水に関して、奈良県は撤退、西宮市も撤退の道を、伊賀市は自己水源が余っている上過大な水需要を見積もっていること。以上、川上ダム計画は、無理矢理の計画である。大災害が発生しないことを主眼にした流域対策を整備計画に盛り込むことが一番大切だ。
- ・参考資料1として、川上ダムの利水計画について各自治体に送付した申し入れ書を提出した。12月5日に水需要の精査確認結果が示されるということなので、河川管理者には川上ダムに関する資料についても提出していただくようお願いしたい。
- ・ダムの結論は、現実の問題に強く影響を与える。地元でダム建設を心待ちにしている人もいるので、委員会には胸の張れる意見書を出して欲しい。そのためには、ダムの代替案を徹底的に検討して欲しい。河川管理者の提案している代替案は既存の手法ばかりで新鮮味に欠けている。12/1と12/5のダムWGは最後のチャンス。河川管理者には革新的な手法を出して欲しい。

以上